早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	矢口　舞（やぐち　まい）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 66 回日本社会医学会総会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	矢口 舞，逢野 美夕，徐 桜晗，齋藤 篤，岩垣 穂大，扇原 淳
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	外国人留学生の防災意識とその関連要因に関する研究

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

【背景・目的】日本は災害大国であり，南海トラフ地震や首都直下型地震への備えが重要視されている．災害被害を最小限に抑え早期復興するには，地域コミュニティにおける自助・共助が重要である．例年，在留外国人および外国人留学生は増加している一方，日本に来る外国人は被災経験が少なく，基本的な食料・水の確保や連絡手段，避難所やハザードマップの知識が不足していると考えられる．そこで本研究は，留学生の防災意識の関連要因を明らかにし，大学が提供する防災教育や支援の改善案を検討することを目的とする．

【方法】2024 年 6～10 月に在日留学生を対象に Web アンケート調査を実施した．調査項目は基本属性，防災意識尺度（A～E スコア），SC 関連項目などで構成した．防災意識尺度得点を高値群・低値群に分け，IBM SPSS Statistics 29 を用いて，属性・防災行動・SC との関連をクロス集計と χ^2 検定で分析した．

【結果】対象者は 113 名で，男性 36 名（31.9%），女性 75 名（66.4%），その他 2 名（1.8%）であった．年齢は 20～24 歳が最も多く（58.4%），国籍は中国が 68.1%であった．被災経験は未経験が 55.8%であった．防災意識尺度総合点の高低とアルバイト有無（$p = 0.002$），相談相手（$p = 0.005$）に有意な関連があった．B スコア（災害の危機感），C スコア（他者指向性），D スコア（災害関心），E スコア（不安）の高低とアルバイト有無，賃貸かどうかにも有意な関連がみられた（$p < 0.05$）．防災意識尺度総合点と SC 統合指数には有意な関連がなかったが，E スコアと SC 統合指数，B スコアと 3 つの SC 指数，D スコアと信頼指数の間には有意な関連がみられた（$p < 0.05$）．

【考察】結果から，留学生の防災意識形成には文化的背景よりも生活環境（アルバイト有無，居住形態）が影響している可能性が示唆された．また本研究では，先行研究でみられた SC の高さと防災力の関連は示されなかったが，これは研究対象者の災害経験の有無がもたらす備えの充実さの程度である可能性が考えられる．一方，SC の個別要素（交流，信頼，社会参加）は防災意識の各側面と関連し，日常的な交流や信頼関係を通じて危機感や協力意識が高まることが示唆された．今後は，より多様な国籍や文化的背景を持つ留学生を対象に，防災意識形成の共通性と文化特異性を明らかにする必要がある．

※無断転載禁止